配管用梁貫通孔

設備工事には、配管類や保持などを取り付けるために構造体に孔をあける事が多い。建物の構造のためには、設備工事は少くことはできないし、構造体に孔をあけることはやめを得ない。しかし構造耐力上に影響するような孔は、絶対にあけなければならない。標準、構造、設備の各担当者が、事前に協議して適当な孔あけをしなければならない。

■配管用梁貫通孔

内 容 大梁で貫通孔の位置が、縦に重なり一か所に集中している。梁の断面の欠損部分が多く耐力が低下し問題である。

処 置

集中した孔を埋めて、横に新らたにあけ直す。孔あけは、ダイヤモンドドリルを使用すると、正確にあけられる。しかしこの場合鉄筋を同時に切断することがある。事前に鉄筋の位置を調べ確認して孔あけをおこなう。

孔埋めは、完全にモルタルなど充填させる必要があるため、密接セメントまたはメボキシモルタルなどが有効である。

設 計

貫通孔は、水平一列に並べて設ける。数が多くなる場合には、1つの孔を許容最大限に大きくし複数の配管を通す場合もある。
〔参照：2章「梁の貫通」 P72